

[レスリング]

世界ジュニア選手権 稲葉が銀メダル

7月1日から8日まで リトアニアのビリニュスで行われ、専大からは稲葉泰弘(経営2・霞ヶ浦高)と矢野将章(経済1・広陵高)が日本代表として出場。稲葉がフリースタイル55kgで銀メダルに輝き、見事1992年大会以来、13年ぶりの銀を日本にもたらした。

稲葉は「決勝では負けてしまったが、目標が見えてきた」と話した。決勝の相手は2003年の欧州王者。稲葉は猛然と立ち向かっていき、ポイントを先取したが、そこから相手のパワーに押されてしまった。「初めての大きな大会でよく頑張った」と佐藤満コーチも認め、「将来は、オリンピックで金メダルを狙ってほしい」と期待も込めた。



銀メダルを獲得した稲葉(左から2人目)

今大会で海外選手に負けないパワーや国際舞台での経験といった課題がハッキリした。前月の「全日本」では3番手に甘んじたが、大きく化けるだけのポテンシャルを秘めていることは間違いない。激戦の55kg級制覇を目指し、8月のインカレに挑む。

(松本 旬平・経済3)

全日本選抜選手権

岩崎グレコローマン60kg級で準優勝

惜しくも世界選手権代表を逃す

6月22、23の2日間、東京・代々木第2体育館で行われ、グレコローマンスタイル60kg級に出場した岩崎健太(経済4・専大北上高)が準優勝。フリースタイル55kg級でも稲葉泰弘が3位と好成績を残した。

ハンガリーのブダペストで9月26日から10月2日に行われる世界選手権の代表をかけた今大会。惜しくも今回は代表の座を逃しはしたものの、確実に専大の名を全国に知らしめることになっただろう。

岩崎は「悔しいが、この大会で良い経験が出来たと思っている。いろいろな課題が見つけたので、技術的にも体力的にも成長して次につなげていきたい」と前向きに語った。

また、今大会にはレスリング部OBの田中章仁さんも出場、フリースタイル120kg級で優勝を果たし、世界選手権代表を決めた。

(清水 智之・ネット情報2)

[ゴルフ]

全国大学対抗戦 男子が準優勝

男子「トピーカップ」出場権を獲得 女子は5位に終わる

6月15、16日、北海道クラシックゴルフクラブで行われ、アベック出場の専大は、男子が準優勝を遂げたが、女子は5位に終わった。この結果、男子は9月に行われるトピーカップ日米大学対抗選手権の出場権を獲得した。

男子は初日、全員が安定したスコアで回り、ハーフ終了時点で暫定トップの好スタートを切ったが、後半は東北福祉大に追い上げられ、8打差の2位。2日目は前日よりも2打マイナスの298でホールアウトしたが、逆転優勝はならなかった。



屈指の難コースで堂々2位のゴルフ部男子

男子の全国トップ3入りは実に10年ぶり。この快挙に原田大介主将(商4・大阪桐蔭高)は「優勝を狙って挑んだが、あと一歩のところまで逃してしまって本当に悔しい。しかし、準優勝という結果には満足です」と語った。

また、女子は初日4位と健闘したが、順位を落とし、5位に終わった。

(伊東 明希・文3)

[フェンシング]

全日本学生王座決定戦 男子サーブル準優勝

6月4、5日、京都府大山崎町体育館で行われ、男子サーブルで準優勝と好成績を収めた。

関東・関西・東北・九州の各リーグ上位校によるトーナメント方式。関東学生リーグで2位になった男子サーブルが出場。決勝戦で関東1位の法大に20—45で敗れた。

池澤春光主将(経営4・鳥取西工高)は「自分たちには「気持ち」が足りなかった。今回の試合で団結力や勝とうという意識の大切さを感じた。次こそは優勝を目指して頑張りたい」と語った。

感じた思いを忘れずに次へとつなげて行ってほしい。優勝への道のりはそう遠くないはずだ。

(矢口 蘭・文3)

[バドミントン]

女子ダブルス 1・2・3位を独占

関東学生選手権

準決勝、決勝が7月1日、立川泉体育館で行われた。女子ダブルスで木村綾(経営2・金沢向陽高)・梨木春花(商2・金沢向陽高)ペアが優勝、田島朝美(経営3・聖ウルスラ学院高)・田中里実(商3・埼玉栄高)ペアが準優勝、高橋沙織(経営1・埼玉栄高)・井上まり(文1・越谷南高)ペアが3位に輝き、上位を独占した。木村はシングルスでもベスト8入りを果たした。

決勝は、総合力で勝ち抜いてきた田島・田中ペアに、木村・梨木ペアは持ち味の“攻撃する、プレースタイルで挑んだ。練習で対戦した時とは異なる田島・田中ペアの戦法に苦戦もしたが、「優勝が

目標だった」と語る木村・梨木ペアの勝ちたい一心が勝利に結びついた。成瀬誠監督は「みんな頑張ったが、優勝は真面目に、一生懸命取り組んだ結果。今後は、連日続く試合の疲労に耐えるだけの持久力をつけてほしい」と課題を挙げた。これから東日本学生、インカレと大きな大会が続くが、上位進出を目指して頑張してほしい。夏の合宿で鍛え上げられた選手一人ひとりの活躍に期待したい。



上左から梨木・木村、井上・高橋、下左から田中・田島

(中川 泉穂・文2)

[馬術]

3種目総合で準優勝 森は障害飛越優勝

関東学生競技大会

6月23日から26日までの4日間JRA馬事公苑で行われ、専大は障害飛越と総合馬術(調教・耐久・余力)で2位、馬場馬術で3位となり、3種目総合で準優勝と素晴らしい成績を収めた。この結果、全日本学生選手権のすべての種目において出場権を獲得。個人では障害飛越で森裕悟主将(商4・関東第一高)が優勝した。

初日の障害飛越では、ウイニングエッチ号・森主将の息の合ったコンビジャンプで、明大・北島とのジャンプオフを制し、団体でも2位と好スタートを切った。2日目の馬場馬術も3位に食い込んだ。最終日の総合馬術では、調教で明大、日大に次ぐ3位だったが、続く耐久で一つ順位を上げると、最後の余力では一人の失権者も出ることなく2位を守った。

この結果に富沢健悟監督は「得意とする障害では去年よりもレベルアップしているはずが、優勝出来ずに悔しい。秋の全日本では「完全制覇」を目指す」と、力強く語った。

関東学生争覇戦 6月11、12日にJRA馬事公苑で行われた。1回戦を突破するも、2回戦で明大に、3位決定戦で日大に敗れ、4位に終わった。



障害飛越で個人優勝の森裕悟 (撮影・伊東)

(伊東明希・文3)

◆ユニバーシアード大会出場選手

- ◇フェンシング部 鈴木彩香 商3・埼玉栄高
 - ◇フェンシング 福田佑輔 平16経済・警視庁
 - ◇バスケットボール 中川和之 平17経済
 - ◇テニス 道慶知子 平16経済・ミズノ
 - ◇レスリング 田中章仁 平17経済・FEG
- (卒業生の敬称略)